㈭　(1)のウに掲げる表、(1)のキの㋐、ケの㋐、コの㋐及びニの㋐、(2)のエからカまで、(2)のキに掲げる表並びに(2)のケ及びサからフまでに対象とする家畜等が定められている飼料にあつては、対象家畜等

㈮～㈷　（略）

㈜　（略）

ウ　（略）

２～６　（略）

別表第２（第２条関係）

１～５　（略）

６　飼料添加物一般の試験法

（略）

⑴～⒀　（略）

⒁　酵素力試験法

①～⑦　（略）

⑧　フィチン酸分解力試験法

（略）

ⅰ～ⅳ　（略）

ⅴ　第５法

基質溶液の調製

フィチン酸ナトリウム0.98ｇ（0.975～0.984ｇ）を量り、0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム緩衝液（pH5.5）約80mLを加えて溶かし、酢酸でpHを5.5に調整した後、100mLの全量フラスコに入れ、同緩衝液を標線まで加えて100mLとする。

反応停止発色液の調製

モリブデン酸アンモニウム20ｇ（19.5～20.4ｇ）を水180mLに溶かし、アンモニア水２mLを加えた後、水を加えて200mLとし、モリブデン酸アンモニウム試液を調製する。バナジン酸アンモニウム0.47ｇ（0.465～0.474ｇ）に水160mLを加え、水浴中で撹拌しながら約50℃に加温して溶かした後、硝酸（175→500）４mLを加え、室温まで冷却した後、水を加えて200mLとし、バナジン酸アンモニウム試液を調製する。

モリブデン酸アンモニウム試液25mLに、バナジン酸アンモニウム試液25mLを加え、よく振り混ぜ、硝酸（175→500）16.5mLを加えた後、水を加えて100mLとする。反応停止発色液は、用時調製する。

操作法

試料溶液は、各条で規定する方法で調製する。基質溶液２mLを全量ピペットを用いて量り、15mLプラスチック製遠心沈殿管に入れ、37±0.5℃に加温し、５～10分間放置する。この基質溶液に、別に、37±0.5℃に加温し、５～10分間放置した試料溶液１mLを全量ピペットを用いて加え、37±0.5℃で正確に60分間放置する。その後、反応停止発色液２mLを全量ピペットを用いて加え、よくかき混ぜ、室温で20分間放置し、更に2,500×ｇで10分間遠心分離を行い、得られた上澄液を試験反応溶液とする。この溶液につき、水を対照液として波長415nmにおける吸光度OD_Tを測定する。

㈭　(1)のウに掲げる表、(1)のキの㋐、ケの㋐、コの㋐及びニの㋐、(2)のエからカまで、(2)のキに掲げる表並びに(2)のケ及びサからヒまでに対象とする家畜等が定められている飼料にあつては、対象家畜等

㈮～㈷　（略）

㈜　（略）

ウ　（略）

２～６　（略）

別表第２（第２条関係）

１～５　（略）

６　飼料添加物一般の試験法

（略）

⑴～⒀　（略）

⒁　酵素力試験法

①～⑦　（略）

⑧　フィチン酸分解力試験法

（略）

ⅰ～ⅳ　（略）

（新設）